西合志南小学校 学校だより 文責 田中 宏和

西南小の風

だれかのために じぶんのために いっしょうけんめい

I いっぱい C ちょうせん T たのしいな

令和5年11月29日
第31号

今から二年前の令和三年度、学校職員のＩＣＴリテラシーが一気に上がりました。ハード面が整備されたことによって、「使わざるを得ない」状況が生まれたからです。前任校（中学校）では、九月のコロナ休校時がそうでした。オンラインの健康観察、授業を行うことにしたからです。学校職員はＰＣでの文字入力はできるという最低限のリテラシーの者から、ＩＣＴ支援員さんに勝るとも劣らないほどの知識や技術を持つ者までいます。その時は、各児童生徒の端末とオンライン接続することをまずはクリアしなければならないことが、一部職員には非常に高い壁に思えたようです。「本当にやるんですか？」と、自信が無い職員は何度も聞いてきました。「これからはできなきゃダメです」と心を鬼にして言った覚えがあります。そこから、オンラインはあたりまえになりました。ほぼ毎日、コロナ感染不安の出席停止が各学級にあり、その子らに向けたオンライン授業を行う必要がありました。結果、「案ずるより産むが易し」で、やってみたらみんなできたのです。挑戦は大事です。

オンライン授業があたりまえになったその影響がどうだったかというと、良い面としては、児童生徒自身のＩＣＴリテラシーも向上し、調べ学習等が深まり、情報活用能力が自ずと向上しています。また、不登校や別室登校の児童生徒への学習保障がやりやすくなりました。

課題としては、ネット上から正しい情報を検索したり、選別したりするスキルをしっかり学ぶ必要が出てきました。そして、情報モラルの必要性がさらに高まりました。例えば、コロナ禍での一斉オンライン授業時に、授業参加者が並ぶ画面のスクリーンショットをＳＮＳにあげる行為が、主に中高で頻発しました。当然、全体指導はしますが誰がやったかはわからないので、結局はオンライン授業時のカメラオフを認めざるを得ない状況になる学校もありました。

また、学習保障がやりやすい分、子どもと保護者の欠席のハードルが下がりました。それが、今年も全国で過去最高を更新した長欠・不登校児童生徒数の要因の一つかと思います。休むことで生活のリズムが狂ってしまったのです。更に、オンライン授業の効果の有無を吟味する必要もあるでしょう。

個人的には、今は過渡期にあると思います。一人一台やオンライン授業があたりまえになって、様々な課題が浮上しています。毎日のように端末の修理依頼の書類を見ていますし、今年はｅラーニングの採用で各教科問題集等の購入を極力↘減らし荷物が軽くなったはずですが、やはり年々厚くなる重い教科書を背負い、その上タブレットを抱えている姿を見たとき、特に低・中学年は辛そうに見えます。視力低下の課題も出ていましたね。そうした課題を超えるぐらいのＩＣＴ機器の効果や便利さを、享受しているとは言いがたい状況だと感じています。それでも結局は、使わなければ、進歩していかないのです。ジレンマです。

あくまで児童生徒に学力ひいては生きる力を付けることが我々の目的ですから、ＩＣＴを使うことによって、明らかに使わないよりも効率が悪くなることが考えられるのであれば使うべきでは無いです。ただ、どう使えば効果的なのかの研究や情報交換を日常的に行い、機会を見つけては挑戦していくことが必要です。それは職員にも伝えています。

ご家庭ではいかがでしょうか。スマホを持たせられているご家庭も少なくないと思います。子どもはスマホを使いこなしているように見えますが、案外使えていません。我が家では、わからない、知らないことがあると簡単に尋ねてくる我が子に対して、夫婦で「ネット見ろ」と言う機会のなんと多いことか。案外ＳＮＳとゲームやユーチューブだけの道具になっていることが多いのではないでしょうか。一番避けたいのは、大金を払って購入した道具（スマホ等）で、心身に傷を負ったり負わせたり、本来すべきことがなおざりになったりしてしまうことです。子どものＩＣＴ教育は、便利な道具を便利に使えるようにすることが大切だと思います。そういう声かけをしていきたいですね。（共に考えましょう。）

とはいえ、自身を振り返ってみれば、時代に取り残され始めていることを感じています。本校一五〇周年の周知を目的にインスタグラムを開設しました。ＳＮＳをやらない私にとって、アカウントをとるのも一苦労でしたし、画像を上げる時は若手職員に付きっきりでレクチャーを受けました。そもそも、インスタグラムの意味がわかっていません。また、毎週水曜日の朝、子どもたちはタイピングの練習をしています。私も子どもたちが使うタイピングアプリに挑戦してみました。ＳＮＳは分からないにしてもタイピングぐらいは…と、日頃仕事で使うのでそれなりに自信はありました。結果、「Ｅ」判定で普通以下でした…。

ＩＣＴの世界は楽しくも厳しいのです。

571 打鍵	32 ミス	0 時間

「 E 」判定：普通より少し下のレベル、あと少しで一人前です